

市町村名	今帰仁村									
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-①	今帰仁村健康長寿体験滞在型観光の促進事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(1)-ア		
担当部課名	福祉保健課		事業実施（予定）年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)		
事業内容	・健康長寿体験滞在型観光を促進するため、これまでに実施された村民アンケート調査を基に、健康長寿作戦会議と健康づくりプログラムを村民と共に作成し実施する。また、村観光協会とヘルスツーリズムの組織づくり、ツアープログラムづくりを推進する。									
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）									
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,183	16,777	10,664					
		(b) 予算現額	7,183	15,647	9,457					
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,130	▲ 1,207					
		(d) 前年度繰越額	—	—	—					
	A. 計 (b+d)		7,183	15,647	9,457					
	B. 執行済額		4,836	15,647	9,457					
	うち交付金充当額		3,868	12,517	7,566					
	次年度繰越額		0	0	0					
	執行率（％）(B/A)		67.3%	100.0%	100.0%					
	予算の状況の説明		・推進委員による健康長寿作戦会議、行政区における健康長寿実施を当初予定通りアンケート調査報告も併せて開催した。 ・村観光協会と連携し、プロモーションビデオの作成と県外からのモニターツアーを実施。 ・1,207千円の不用額は、運動指導士が採用できなかったことによるもので、予算範囲内での適正な執行ができた。							
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況							
			24年度	25年度	26年度	27年度				
	・ヘルスツーリズムにおけるプロジェクトチームの設立	目標	(1,987件)	(アンケート調査の実施)	(プロジェクトチームの設立)	()				
		実績	1,847件	アンケート調査の実施(報告書の完成)	プロジェクトチームの設立の実施					
	・健康長寿作戦会議の開催(3回) ・健康長寿作戦実施(3回)	目標	(2回)	(3回)	(作戦会議3回 作戦実施3回)	()				
		実績	2回	3回	作戦会議3回 作戦実施3回					
達成状況説明	・健康長寿作戦会議3回と作戦実施を3回実施。健康長寿レシピ集を作成し栄養指導健康づくりを展開。 ・健康長寿基本システム構築のためのアンケート調査報告会を村全体で2回、行政区において3回実施。 ・ヘルスツーリズムのプロジェクトチームを設立し、村観光協会とも連携して村のプロモーションビデオの作成、県外からの健康長寿体験滞在型観光モニターツアーを1団体実施。									
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)			
	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・プロジェクトチーム会議の開催(1回)	目標	(0) (0)	(1,987件) (3回)	①調査実施 ②プログラム立案	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・プロジェクトチーム会議(1回)	(健康長寿システム構築) 5回			
		実績		(1,847件) (2回)	①調査実施 ②プログラム立案	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施(立案会議のみ3回) ・フロブプロジェクト会議2回				
	【参考指標】 ・主要観光施設における観光客数		目標	(248,500人)	(261,000人)	(274,000人)	(287,000)	(300,000人)		
			実績		249,998人	266,398人	286,215			
	進捗状況説明	・地域で共に支えあう健康づくりのプログラムの立案のために行政区での会議を3回開催したが、プログラムの実施については、プログラムの実施時期を各行政区において検討したうえでの実施となり次年度実施とした。 ・村民が実施している生活習慣予防の運動と今帰仁村の健康長寿食をプログラムして開催した健康長寿体験滞在型観光モニターツアーによって、今帰仁村への観光客誘致と医療ツーリズムを活用した6次産業化への枠組みが示された。 ・プロジェクト会議は2回行い、1回目は本村全体の健康長寿滞在型観光へ向けた会議、2回目はモニターツアー実施に向けた会議を行った。								

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	- 健康長寿体験滞在型観光の促進に向けて、地域における健康づくりや疾病予防を積極的に推進し健康長寿村実現に向けた環境整備を推進する。 - 地域全体で健康のために実践している日常的習慣を健康長寿村へと繋げ、村民の健康づくりを基にした健康長寿体験滞在型観光の事業化を図る。 - 地域で支えあう健康づくりプログラムの立案されたが、実施時期については、各行政区において検討したうえでの実施となり、プログラムの立案と実施の継続性を図る必要がある。	- 栄養、運動、休養などの村内の健康につながる様々な資源を取り込み、健康づくりの日常的実践による村民の健康寿命の延伸へと繋げ、健康的な地域づくりを促進するために、地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施について各行政区の団体等が主体的に企画・運営を行うことが望ましい。 - 健康長寿体験滞在型観光モニターツアーによる地域での新たな観光産業の創出と地域経済の向上。
今後の取り組み方針		
- 各行政区モデル地区での健康長寿作戦会議を開催することで、健康問題、健康課題、解決策、健康づくり計画を立案し実施する。 - 美しい豊かな自然環境の中で、村民と本村を訪れる方々が心身ともにリラックスした健康づくりを提供する。 - 本村で提供できるアクティビティなスポーツ、世界遺産の今帰仁城跡に代表される沖縄の歴史を巡りながら、楽しめる健康づくりを推進する。 - 地元の食材を活かした伝統的健康食を楽しみながら健康づくりを進める。 - 本村の個性を活かした健康づくり教室を開催し、村民の健康づくりを進め、村民の健康づくり地域活動と併せて今帰仁村でしかできない歴史、文化、食やスポーツを提供することで健康長寿体験滞在型観光プログラムをヘルスツーリズムとして推進し受け入れ態勢をつくる。 - 地域で共に支えあう健康づくりプログラムの実施に向けて、各行政区の団体等とのネットワーク強化を促す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>9,864</td><td>9,457</td><td>7,566</td><td>1,891</td><td>407</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,864	9,457	7,566	1,891	407
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,864	9,457	7,566	1,891	407										
今帰仁村 9,457千円 委託料 1,628千円 (有)名護ツアーセンター 1,428千円 インディービジュアル 牧野映像事務所 200千円 作戦会議 作戦実施 2,259千円 推進委員8名 1,345千円 光文堂コミュニケーションズ (株) 914千円 事務費 5,570千円 報酬費、共済費、賃金、需用費 役務費、使用料 ※村負担分(交付対象外経費) 旅費 342千円 需要費 65千円を除く。														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託料については、3社見積によるものであり、妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については、1,207千円の減額を行って適正であったと考える。										
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村									
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	2-①		人材育成事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(1)	
事業内容	・小学生を対象に、山形県酒田市と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流を行う。また、大都会の東京大学を見学し、子供達の視野の広がり及び教養に対する意欲と将来に向けての刺激を与える。									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,093	4,934	5,142					
		(b) 予算現額	7,093	4,894	5,076					
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 40	▲ 66					
		(d) 前年度繰越額	—	—	—					
		A. 計 (b+d)	7,093	4,894	5,076					
	B. 執行済額		4,692	4,894	5,076					
	うち交付金充当額		3,753	3,915	4,060					
	次年度繰越額		0	0	0					
	執行率（％）(B/A)		66.1%	100.0%	100.0%					
予算の状況の説明		・予算の範囲内で適正な執行が行えた。								
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況							
			24年度	25年度	26年度	27年度				
	・派遣生徒数:36人	目 標	(36人)	(36人)	(36人)	()				
		実 績	36人	36人	36人					
		目 標	()	()	()	()				
		実 績								
達成状況説明	・全国的にインフルエンザが流行の中、団員36人引率者9人が健康管理に気をつけ自己管理が良いと評価、一人も欠けず全日程を計画どおり実施することができた。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)			
	・派遣生徒数:36人 ・報告会の実施(1回)	目 標	(36人)	(36人)	()	36人 報告会(1回)	(360)			
		実 績		36人	ジュニアリーダー及び「現代版組踊 北山の風」での活動の実施	36人 報告会(1回)の実施				
		目 標	()	()	()	()	()			
		実 績								
	進捗状況説明	・参加者は、派遣後、地域や村のジュニアリーダーとしての教育長の講話を実施。報告会での団員の個人のテーマ、班のテーマの自己評価を各自発表した。また、参加者全員の報告書の作成を実施した。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・今帰仁村の歴史や文化について、参加者の理解をより深めるために、事前研修で今帰仁村歴史文化センター館長より学習会を行った。 ・本村の学校・地域・文化等のPRをより効果的に行うため、今帰仁村の紹介ビデオを作成し、作成したビデオを酒田市の交流会で発表を行った。	・事業目的を踏まえ、山形県酒田市と指導者育成の為、南国沖縄県にとって本州の北に位置するまさに「異文化」であり異なる環境での生活、文化、歴史等について、事前研修を増やしさらに見聞を広げる必要がある。また、今後は酒田市の高齢者との交流会も含め考えていきたい。
今後の取り組み方針		
・荒天時の対応も想定し、計画を立案する。 ・今後は、高齢者との交流等も検討する。 ・H27年度以降も、これまでの計画を基本として、随時内容を検証し、必要に応じて計画の立案に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
今帰仁村 5,076千円 委託料 4,440千円 事務費 636千円 沖縄ツーリスト (株)4,440千円 報償費 140千円 旅費 28千円 需用費 199千円 役務費 54千円 使用料及び賃借料 215千円 今帰仁村「ふれあい少年の翼」 実施に関する旅行委託業務 今帰仁村「ふれあい少年の翼」 実施に関する事務費				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
5,076	5,076	4,060	1,016	0
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託業者については、指名競争入札方式で選定し妥当であったと考えている。 ○ 予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○ 費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	東ティモールと本村児童の交流推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	・東ティモールの児童を招聘し、本村3小学校との交流で国際感覚を育成し、今後村としても人道的支援や姉妹校締結を目指し、交流を通して本村児童の人間性の育成や国際貢献できる人材の育成を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,400	1,644	1,644		
		(b) 予算現額		1,644	1,643		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,400	0	▲ 1		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	0	1,644	1,643		
	B. 執行済額			1,644	1,643		
	うち交付金充当額			1,315	1,315		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)			100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・予算の範囲内で適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・受入児童数:2人、引率:3人	目 標	()	(受入児童数:4人 引率:2人)	(受入児童:2人 引率:3人)	()	
		実 績		受入児童数:2人 引率:3人	受入児童:4人 引率:2人		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・児童4人及び引率2人を招聘した。村内には3泊4日の滞りで、村内3小学校において交流会・交流学習・コンサートを行っている。交流学習では、習字やエイサー、調理実習をしたりして交流を深めることができた。また、宮良多鶴子さんによる東ティモールのお話やコンサートの中で平和の大切さや文化の違いを実感することができた。4名の児童は、村内の家庭に民泊し、各家庭でも国際交流を深めることが出来た。 引率3人、受入児童2人を目標に計画していたが、引率者2人で4名の児童を引率対応が可能となり、引率者2人に対し受入児童4人に増やし実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	国際交流活動による海外からの受入者数 ・受入児童数:2人、引率:3人	目 標	()	()	(受入児童数:4人 引率:2人)	受入児童数:2人 引率:3人	()
		実 績			受入児童数:2人 引率:3人	受入児童数:4人 引率:2人	
		目 標	()	()		()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・児童4人及び引率2人を招聘し、本村3小学校の児童生徒等と交流活動を行った。具体的な交流活動としては、習字を書いたり、エイサーをしたり、家庭料理の授業で調理実習をしたりして交流学習を行った。 ・4名の児童は村内の家庭に民泊し、各家庭でも国際交流を深めることができた。 ・引率3人、受入児童2人を目標に計画していたが、引率者2人で4名の児童を引率可能が可能となり、引率者2人に対し受入児童4人に増やし実施した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・東ティモールからの移動日数も一週間程度かかることから児童の体調面の配慮も必要になっている。また、実際行きたくても経済的な問題から招聘する児童が4名となった。東ティモールでの児童生徒の選考を8月から9月の間に行い、児童4名以上を招聘したい。	・東ティモールから招聘する児童の選考については、体力的な観点から「6年生に該当する児童」としている点や経済的な問題等から4名の招聘となった。招聘する学生の選考について、弾力的に対応することで4名以上の児童を派遣できるよう目指したい。 ・今後においては、引率者2人対し招聘する児童を4人以上が派遣できるように目指したい。
今後の取り組み方針		
・国際感覚を育成するためにも、本村の児童生徒の派遣も視野に入れ人道的支援や交流を続けていきたい。 ・今帰仁村においてホストファミリーと日常生活に過ごし、沖縄文化、今帰仁村の自然、東ティモールの文化を児童がそれぞれ披露しあい、書道、染色、三味線などの体験学習、体育、図画工作の事業への参加など、児童がお互いに教え合い、助け合いながら事業に参加し、「思いやりの心」「理解し合う心」を育てる。東ティモールとの交流により、小さく貧しい国に対しても目を向け、苦しみの中にいる人々にも手を差し伸べ、地球規模の物事を考えることのできる人材を育てる。 ・今後は、引率者を最低限に抑え、受入児童の人数を増やせる環境及び体制づくりを行い、本村の児童との交流を推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
1,643	1,643	1,315	328	

今帰仁村
1,643千円

委託料
1,643千円

名護ツアーセンター(株)
1,643千円

東ティモールと本村児童の
交流に関する委託業務

航空運賃 (デイリー香港～沖縄)974

燃料・航空利用税82

海外旅行総合保険58

滞在費(ティモール国内)引率者送迎90

現地滞在費98

課外活動費15

招聘運営費(沖縄での宿泊費等)326

合計1,643

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、(有)名護ツアーセンターだけが実施しているため妥当であると考え。 ○予算規模については、適正であったと考え。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	一	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	芸術家招聘事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成	
事業内容	・本村の小学校校歌の作詞者関係者であるソプラノ歌手（講師）を村内の各学校に招聘し、コンサートと東ティモール支援に係る講演会を実施する事によって、本村児童と東ティモールの児童との交流を図る。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	725	725	725		
		(b) 予算現額		500	500		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 725	▲ 225	▲ 225		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	0	500	500		
	B. 執行済額			500	500		
	うち交付金充当額			400	400		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)			100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・報償費とは別に旅費を計上しておりましたが、報償費の中で措置したため予算の減額が発生したが、予算の範囲内で適正な執行が行えたと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
	・公演会開催校：小学校3校		24年度	25年度	26年度	27年度	
		目 標	()	(小学校2校)	(小学校3校)	()	
		実 績		小学校3校	小学校3校で実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・コンサート及び東ティモール支援のための講演会を小学校3校（3回）で開催したことにより、本物の芸術家にふれることにより、芸術に関する興味・関心が増し、幅広い人格形成に繋がる。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	・公演会に参加した児童生徒数	目 標	()	()	参加生徒数 462人	参加生徒数 600人	()
		実 績			参加生徒数 600人	参加生徒数 610人	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・本物の芸術家であるソプラノ歌手によるコンサート及び東ティモール支援のための講演会を小学校3校（3回）で開催し、610人の生徒が参加した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・東ティモールと本村児童の交流推進事業の効果と深く関連し、活動内容や招聘した児童の帰国後の様子等について、コンサートや講演会の中で報告を行っている。	・講演会やコンサートの内容を工夫し、東ティモールと本村児童との交流推進事業の効果と深く関連する事業ひとつにして実施する方向で検討する。
今後の取り組み方針		
・本村出身の関係者であるオペラ歌手を村内学校へ招聘し、本物の芸術家の歌声を生で鑑賞し、芸術(音楽・声楽)に関する興味・関心を喚起し、村内児童生徒の情操を豊かにする。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
500	500	400	100	

今帰仁村
500千円

→

報償費
500千円

→

芸術家 1名
音響担当1名
500千円

(芸術家招聘事業に係る報償費)

横浜～今帰仁村往復旅費(2回)	182
講演会・ミニコンサート(3回)	270
宿泊代(2泊3日)2回	48
合計	500

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○東ティモールを支援しているオ・ライ・ティモールの会の宮良多鶴子(芸術家)さんが東ティモールの児童を引率しているため妥当だと考えている。 ○予算規模については、225千円減額を行ったが適正な規模だと考えている。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	一	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	未来を担う人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進	
			Ⅲ-3-(1)				
事業内容	・大学進学に特化した大学進学講座を実施し、進学実績の向上と地域に根ざした特色ある学校づくりの観点から地域教育資源を活用し学力向上と地域の活性化を目指す。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	775	2,002	2,010		
		(b) 予算現額	775	924	609		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,078	▲ 1,401		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	775	924	609		
	B. 執行済額		90	924	609		
	うち交付金充当額		72	739	487		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		11.6%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・当初予算額は120日で積算し計上したが、57日の実施となったため、1,401千円の減額となった。しかし予算の範囲内で適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・大学進学講座の開催 開催時期:6月～3月 開催日数:120日(週3日程度) 開催講座数:1日あたり90分×2コマ	目 標	(16名)	(16名)	開催時期:6月～3月 開催日数:120日 開催講座数:2コマ	()	
		実 績	16名	9名	開催時期:7月～3月 開催日数:57日 開催講座数:2コマ		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・6月9日～6月12日まで申込期間を設定し村営塾受講者募集を図ったが申込者が少なく6月から開催ができなかった。また、講師の時間調整が上手くいかなかったため日数も減となった。 ・平成26年7月から講座が始まり、週3日で火曜日は1クール90分の2クール、水曜日及び金曜日と同様実施。夏・冬休み期間中も同様実施した。 ・講座参加人数は目標の10名は、実績では1・2年生を含めて15名であった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・講座参加人数:10名	目 標	()	(16名)	(16名 50%)	(10名)	()
		実 績		16名	9名 67%(9名中6名)	7名	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・平成26年7月から講座が始まり、週3日で火曜日は1クール90分の2クール、水曜日及び金曜日と同様実施。夏・冬休み期間中も同様実施した。 ・講座参加人数10名中の75%の合格率であったが、実績では7名で6名(85%)の合格であった。 ・6月に村営塾受講者募集を図ったが申込者が少なく開催が遅れたことと、講師の時間調整が上手くいかなかったため目標を達成することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・年度の早い時期から講師の選定及び依頼を進めると共に、地域・行政・学校が一体となって、生徒への進路だよりによる村営塾受講募集等の啓蒙活動に取り組む必要がある。	・受講生の募集の啓蒙活動及び講師人選、時間調整等を十分に行いスムーズに事業が行えるように努める。 ・北山学園構想の一環として、村内にある北山高等学校の学力向上と理数科及び普通科の生徒の国公立大学等の進学を目指し、スケジュールやカリキュラム内容等を検証し、より質の高い講座を実施できるように努める。
今後の取り組み方針		
・今後は、大学進学に特化した理数科を抱える北山高校にとって国公立大学への進学実績の向上は不可欠であり、講座開催について住民に十分周知し、参加者の増員を図るとともに、授業の充実を図り、合格率の向上に努める。 ・今後は、講師と連携を図り、個別にきめ細かい対応ができるよう協力体制を整え授業の充実を図り、合格率の向上に努めていきたい。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>609</td><td>609</td><td>487</td><td>122</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	609	609	487	122	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
609	609	487	122	0										
今帰仁村 609千円 報償費 575千円 講師5名 575千円 委託料 34千円 セコム琉球(株) 34千円 未来を担う人材育成事業に係る報償費 臨時警備に係る委託業務														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○講師の報償費は北山高校が県立であるため、県の非常勤講師の時給を参考に行い、委託業者については、学校の警備を受託していることから選定については妥当と考える。 ○予算規模については、1,401千円を減額を行ったが適正だと考える。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	学習支援者配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	・学力向上のための学習支援員や、障害のある園児・児童生徒(多動性や情緒も含む)のための特別支援員等を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら支援を行うことで教育環境を充実させる。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,263	21,353			
		(b) 予算現額	16,826	19,855			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 437	▲ 1,498			
		(d) 前年度繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	16,826	19,855			
	B. 執行済額		16,826	19,855			
	うち交付金充当額		13,460	15,844			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・年度途中人員の入れ替わりがあったため、当初予算より1,498千円の減額となったが、事業計画等は適正に進めることができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	学習支援員及び特別支援員の配置人数 ・幼稚園(学)0人 (特)1人 ・小学校(学)3人 (特)6人 ・中学校(学)1人 (特)1人	目 標	幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)0人	幼(学)0人(特)1人 (小(学)3人(特)6人) 中(学)1人(特)1人	()	()	
		実 績	幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)0人	幼(学)0人(特)0人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)1人			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・今年度から中学校に特別支援員を配置し、小学校から引き続きの支援ができるように体制を整えた。 ・幼稚園に1名の配置を計画をしていたが、保護者側から「支援をつけずに見守ってほしい」旨の要望があったため、小学校へ人員を増やした。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度
学習支援員及び特別支援員の配置人数 ・幼稚園(学)0人 (特)1人 ・小学校(学)3人 (特)6人 ・中学校(学)1人 (特)1人		目 標	()	幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)0人	幼(学)0人(特)1人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)1人		()
		実 績		幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)0人	幼(学)0人(特)0人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)1人		
・学力や学習意欲の向上 ・村内の幼稚園・小学校・中学校への支援員配置率100%		目 標	()	・学力や学習意欲の向上 ・100%	・学力や学習意欲の向上 ・100%		()
		実 績		・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・100%	・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・100%		
進捗状況説明		・学習支援員による学習面へのサポートだけではなく、特別支援員による児童生徒への精神面への寄り添いなどにより、学校生活を送る上で子どもたちは少しずつ成長している。 ・幼稚園に1名の配置計画をしていたが、保護者側から「支援をつけずに見守ってほしい」旨の要望があったため、小学校への人員を増やした。総数としての人数に変更はなく、実績は100%とした。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・学習支援員および特別支援員は学校経営上なくてはならない存在となっているが、対象児童生徒の数は年々増加の一方であるため、きめ細かい対応まで至っていない部分も見受けられる。	・学習支援ボランティア(大学生)と連携を取り、個別にきめ細かい対応ができるように協力体制を整え、学習支援員、特別支援員の個々の処理能力を高めるため研修を実施する。 ・園児、児童、生徒の成長を保護者や教員、そして支援員で随時情報交換し、状況を把握しながら、支援の必要なところには適切に配置、サポートしていけるよう更なる体制強化につとめる。
今後の取り組み方針		
・今年度は幼稚園への人員配置をすることができなかったが、幼稚園は学校教育の最初の要でもあり、困り感を持つ子どもへの早期から対応し、小学校・中学校へ繋げていきたい。 ・保護者や教員、そして支援員で随時情報交換し、状況を把握ができる体制づくりを行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19,855</td><td>19,855</td><td>15,884</td><td>3,971</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,855	19,855	15,884	3,971	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,855	19,855	15,884	3,971											
<pre> graph LR A[今帰仁村 19,855千円] --> B[共済費 2,634千円] A --> C[賃金 17,221千円] B --> D[小学校 (学習支援3人 特別支援7人) 中学校 (学習支援1人 特別支援1人)] C --> E[小学校 (学習支援3人 特別支援7人) 中学校 (学習支援1人 特別支援1人)] D --- F[学習支援者配置事業に係る共済費] E --- G[学習支援者配置事業に係る賃金] </pre>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については、ハローワークにて公募し面接で決定している。更に学習支援員においては、「教員免許の所持」を条件としてさだめており、適切かつ妥当な選定である。 ○予算規模については、1,498千円の減額を行ったが、適正であったと考える。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	中高生海外語学留学支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	・英語を学ぶことへの関心・意欲を高めるとともに、「今帰仁村」の将来を担う、国際感覚豊かな人材育成のため、本村今帰仁中学校に在学する中学生3人及び北山高等学校に在学する本村出身高校生2人を対象に、夏季休学中にアメリカ(ハワイ2週間・シアトル4週間)で学習する機会を与え、世界に羽ばたく人材を育成する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,992	1,992			
		(b) 予算現額	1,979	2,125			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 13	133			
		(d) 前年度繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	1,979	2,125			
	B. 執行済額		1,979	2,125			
	うち交付金充当額		1,583	1,700			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・中学生3人、高校生2人で計画していたが、中学生2人、高校生3人を派遣したことにより133千円の増額を行い、予算の範囲内で適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	・留学生徒数 ・中学生:3人 ・高校生:2人	目 標	(中学生:3人 高校生:2人)	(中学生:3人 高校生:2人)	()	()	
		実 績	中学生:3人 高校生:2人	中学生:2人 高校生:3人			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・留学生徒数 中学生:2人 高校生:3人を派遣することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・古宇利ハーフマラソン等で外国人選手との通訳ボランティア活動 ・今帰仁城跡やさくら祭りなどで外国人観光客の通訳及びボランティア活動	目 標	()	通訳ボランティア活動の実施	通訳ボランティア活動の実施	()	()
		実 績		通訳ボランティア活動の未実施	通訳ボランティア活動の実施		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・今帰仁城跡桜まつりでは、土・日曜日の学校が休みの日に外国人観光客の通訳及びボランティア活動を実施することができた。 ・4月に開催した古宇利ハーフマラソンでは、外国人観光客の通訳ボランティアを実施することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・今後も、1年生～2年生を優先して研修に参加してもらう。	・1年生～2年生を参加させることにより、翌年度4月に開催される古宇利ハーフマラソンへのボランティア参加が容易になる。
今後の取り組み方針		
・平成26年度においては、留学生徒は目標どおり中学生2人、高校生3人と実施できた。また、今回は、外国人との通訳ボランティア活動が実施できたので、今後も、地元に残る中・高校生の1年～2年生を主体に留学生の対象として実施をしていきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,656</td><td>2,125</td><td>1,700</td><td>425</td><td>531</td></tr> </table> 今帰仁村 2,125千円 委託料 2,125千円 沖縄タイムスサービスセンター(株) 2,125千円 今帰仁村中高生海外語学留学支援に係る委託業務 ※自己負担分(交付対象外経費) 531千円(2割相当額)を除く。 ワシントン州シアトル近郊 3名×558千円＝1,674千円 ハワイ州ホノルル近郊 2名×491千円＝982千円 合計 2,656千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,656	2,125	1,700	425	531
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,656	2,125	1,700	425	531										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○中学生の海外ホームステイは(株)沖縄タイムスサービスセンターのみが実施しているため選定方法は妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、適正だと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○総事業費の2割相当額(531千円)を自己負担(交付対象外経費)として計上している。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認適正であった。											

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	児童生徒等の県外・国外派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	・小・中学校の児童生徒や県立高等学校の生徒が、県外・国外で開催される各種スポーツ大会や文化関係大会に参加する際の派遣費用を補助する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,200	2,200			
		(b) 予算現額	2,045	2,335			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 155	135			
		(d) 前年度繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	2,045	2,335			
	B. 執行済額		2,045	2,335			
	うち交付金充当額		1,636	1,868			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・前年度(13団体)から2団体の増(15団体)となり、135千円の増額を行って予算内での、適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	・村内児童生徒等のスポーツ大会等への派遣費を補助する	目標	(①20人 ②156人)	派遣費を補助	()	()	
		実績	①19人 ②99人	派遣費補助の実施			
		目標		()	()	()	
		実績					
	達成状況説明	・県外少年団野球大会は1団体補助で派遣者19人、県外スポーツ大会は14団体補助で派遣者98人、県外・国外文化交流事業は申請団体は0であった。特に今年度は中学生の各種大会等で実績が出せず下回る実績となった					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度
①県外少年団野球大会(派遣人数) ②県外スポーツ大会(派遣人数)		目標	()	(①20人 ②156人)	①20人 ②156人	()	()
		実績		①19人 ②99人	①19人 ②98人		
		目標	()			()	()
		実績					
進捗状況説明		・県外少年団野球大会は1団体補助で派遣者19人、県外スポーツ大会は14団体補助で派遣者98人、県外・国外文化交流事業は申請団体は0であった。 ・県外スポーツ派遣の減は、特に中学生の大会等で派遣に至らない実績の為である。また県外・国外文化交流も派遣交流がなかった為である。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・児童生徒等の県外派遣事業は、一部手続き等及び説明に戸惑う申請者がいた。 ・25年度と比較して、中学生の各種大会等にて派遣に至らず、県外等との文化交流も実績が無かったことから、目標を下回る実績となった。	・申請のやり方や申請費用等について十分説明し、申請手続を円滑に進めたい。また、小学校・中学校・高校の教師及び地域村民と連携し、村広報誌にも掲載し派遣対象者の把握に努める必要がある。 ・予算額的には、増額を行い達成しているが派遣人数等の目標に達していない状況にあり、今後は派遣人数等の把握に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
・児童生徒等の県外派遣事業の推進により、遠征費の負担軽減が図られることから有効な支援策だと考えている。今後は、小学校・中学校・高校・地域団体への周知を図り、その活動実績等を正確に把握するとともに、派遣対象を適正に審査し、継続して事業を実施したい。 ・今後は、個人及び団体・学校関係等との情報交換を行いつつ、派遣人数等の検討を行っていく必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,861</td><td>2,335</td><td>1,868</td><td>467</td><td>526</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,861	2,335	1,868	467	526
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,861	2,335	1,868	467	526										
今帰仁村 2,335千円 補助金 2,335千円 補助金申請団体 (15団体) 小・中学校の児童生徒や県立高等学校の生徒が、県外で開催される各種スポーツ大会や文化関係大会に参加する際の派遣費補助金 ※受益者が2割負担したことから、交付対象外経費(526千円)として計上した。														
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各団体の申請に基づき審査を行い、選定を行っているの で妥当だと考えています。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、135千円の増額を行い、適正な執行 ができたと考えております。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者が2割負担したことから、交付対象外(526千円)とし ている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なも のなのか等について額の確定時において支出等に関する書 類により確認、適正であった。											

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	景観形成強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	・村が管理する道路の舗装、粉塵防止、防護柵等を整備し、歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保することで、集落の深部への観光客受入れ体制を整える。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	77,061	50,430		59,830	
		(b) 予算現額	77,061	50,430		51,829	
		(c) 増減額(b-a)	0	0		▲ 8,001	
		(d) 前年度繰越額	—	—	14,336	—	
		A. 計(b+d)	77,061	50,430	14,336	51,829	
	B. 執行済額		72,348	36,094	14,350	51,829	
	うち交付金充当額		57,878	28,875	10,972	41,463	
	次年度繰越額		0	14,336	0	0	
	執行率(%) (B/A)		93.9%	71.6%	100.1%	100.0%	
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施し、適正であったと考える。また、8,001千円の不用額は入札残によるものである					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	歩きやすい歩行空間の確保(道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵設置等)	目 標	(2.2km)	道路の舗装、粉塵防止、防護柵設置等	道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置	()	
		実 績	2.2km	道路の舗装、粉塵防止、防護柵設置等の実施	道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵等設置の実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・景観に配慮し、観光客が安全に歩行(通行)しやすい道路整備(舗装工事、防護柵設置工事)を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	快適な観光アクセスルートの整備 全体整備のうち 整備率26%行う	目 標	()	(2.2km)	(4.7km)	4.2km 整備率26%	()
		実 績		2.2km	4.7km	4.2km 整備率26%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・防護柵、舗装施行による安全な歩行空間の確保、滑り止め舗装による安全な通行を可能とし観光拠点のアクセスをより快適なものとした。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・村が管理する道路の舗装、粉塵防止、防護柵等を整備し、歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保した。 ・滑り止め、舗装新設により安全な通行が行われた。	・今帰仁村景観計画の中でも景観重点地区に指定の今泊区などは透水性舗装工事が終わったが未だ、観光地域へのアクセスルートの整備が必要な箇所が見られるため景観の保全、継承を推進し、継続的な景観形成事業を進めていく必要がある。
今後の取り組み方針		
継続的に今帰仁村内の景観に配慮した道路整備を進めていく。 ・張りコンクリート設計委託(諸志・仲宗根) ・張りコンクリート工事(平敷) ・簡易舗装設計委託・工事(諸志) ・防護柵設置(諸志・天底) ・滑り止め舗装工事(勢理客)		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		51,829	51,829	41,463
				市町村負担金
				10,366
				交付対象外経費
今帰仁村 51,829千円	役務費 356千円	平良不動産鑑定事務所 356千円	〔運天松堂原線にかかる不動産鑑定評価〕	
	委託料 3,348千円	有限会社 大望エンジニアリング 486千円	〔平敷伊豆味線張り工事にかかる設計委託業務〕	
		(社)沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会北部事務所 2,732千円	〔運天松堂原線工事にかかる用地調査測量及び土地表示登記業務〕	
		株式会社 南城技術開発 130千円	〔運天松堂原線工事装にかかる図面作成委託業務〕	
	工事請負費 47,098千円	有限会社 島政建設 5,388千円	〔今泊透水性舗装にかかる工事請負〕	
		株式会社 島政建設 33,469千円	〔村道運天松堂原線にかかる工事請負〕	
		有限会社 オキホ 3,365千円	〔今帰仁村内防護柵・ガードレールにかかる工事請負〕	
		オバス 株式会社 3,683千円	〔滑り止め舗装にかかる工事請負〕	
		名護道路 株式会社 1,193千円	〔仲原馬場舗装にかかる工事請負〕	
	公有財産購入費 941千円	地権者5名 585千円	〔運天松堂原線工事にかかる財産購入〕	
		地権者3名 356千円	〔今泊透水性放送工事にかかる財産購入〕	
	補償、補填及び賠償金 86千円	2件 86千円	〔運天松堂原線工事にかかる補償金〕	
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は三者見積り、工事請負業者は指名競争により入札を行い、妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、8,001千円の予算減額を行ったが適正だと考えております。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②		環境保全美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	福祉保健課 経済課 建設課 教育委員会		事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客受入体制の整備
Ⅲ-1-1(1)							
事業内容	・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受け入れ体制を整える。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	28,333	50,120	32,728		
		(b) 予算現額	28,333	48,672	35,097		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,448	2,369		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	28,333	48,672	35,097		
	B. 執行済額		25,282	48,672	35,097		
	うち交付金充当額		20,226	38,937	28,077		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		89.2%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・当初、共済費・賃金は10ヶ月を予定しておりましたが、必要な予算は11ヶ月分であったため1ヶ月分及び需用費等を含めた2,369千円の増額を行い、予算の範囲内で適正な執行が行えたと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・村内の観光地の美化作業の実施 ・歴史・文化的な松並木の景観保全の実施	目 標	(27路線)	(27路線)	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施	()	
		実 績	27路線実施	27路線実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化及び危険木の伐採を実施し、快適な観光客の受入ができた。また、台風襲来前に、危険木等を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。 ・不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の活動として、ハブ捕獲器設置、野犬捕獲器設置、不法投棄のパトロールや投棄物の回収や不法投棄防止看板設置等により、事業を幅広く実施することができた。 ・歴史・文化的な松並木の樹木強化を図り、白アリの被害に対しても防除を行い景観を保全することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	・今帰仁城跡及び観光地の美化 ①快適な観光アクセスルートの整備 ②歴史的・文化的な松並木の景観保全 ③樹木の強化	目 標	()	(27路線)	(27路線)	①27路線 ②55本 ③110本	()
		実 績		27路線実施	27路線実施	①27路線実施 ②55本実施 ③54本実施	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化及び危険木の伐採を実施し、快適な観光客の受入ができた。また、台風襲来前に危険木等を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。 ・不法投棄のパトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の活動として、ハブ捕獲器設置及び巡回、野犬捕獲器設置及び巡回、不法投棄のパトロールや投棄物の処理、不法投棄防止看板設置等により、事業を強化することができた。 ・歴史・文化的な松並木の樹木強化を図り、白アリの被害に対しても防除をおこない景観を保全することができたが、樹木強化においては木の直径が大きいものを優先に施工したため費用がかかり目標の本数を施工することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。しかし、最近、台風ハブの発生及び生息区域の拡大により、捕獲活動を継続することにより生息数、生息区域の増大防止に努め、観光客が安心して観光ができる取り組みを継続していく。 ・樹木強化については、木の直径が大きいものから行ったため、細い木に比べて費用が掛った。 ・近年は、これまで観光強化されていなかった自然海岸が人気スポットとして脚光あびており、自然海岸を訪れる観光客が増大している。	・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や乙羽岳森林公園やウツパマビーチ等の観光地及び観光ルートの美化を実施し快適な観光客の受入ができた。しかし、今後は、美化及び環境(ハブ等含む)でできなかった観光地や観光ルートがあるので次年度以降も継続して美化を実施し、観光客受入を整えたい。 ・樹木強化においては今後、木の直径が小さいものも含めた施工の検討を行う必要がある。 ・観光客の訪れる海岸の清掃や周辺の保安林や海岸への接続道などの美化作業などにも取り組まなければならない。
今後の取り組み方針		
・台風ハブをはじめ、外来生物や危険生物の駆除や、不法投棄のパトロール、投棄物の回収・処理をすることにより、本村の自然・環境を保ち、観光の村として、環境美化に即ちする取り組みをする。本村の観光拠点等の不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の事業を、3年度目以降も継続して実施することにより、深くできなかった分を次年度以降も継続して、より深く実施したい。 ・歴史・文化的な松並木の景観を保全する為に樹木の強化を図り、白アリ被害に対する防除も継続的に実施したい。 ・樹木強化においては、木の直径が大きいものから優先に行うのではなく、木の直径が小さいものも含めてバランスよく樹木強化を実施する。 ・近年は、これまで観光地化されていなかった自然海岸が人気スポットとして脚光をあびており、自然海岸を訪れる観光客の増大に対応するため、海岸の清掃や周辺の保安林や海岸への接続道の美化作業なども実施したい。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		35,097	35,097	28,077
				市町村負担金
				7,020
				交付対象外経費
				0
今帰仁村 35,097千円	共済費 2,932千円	賃金職員 15人	〔環境保全美化推進に係る共済費〕	
	賃金 20,540千円	賃金職員 15人	〔環境保全美化推進に係る賃金〕	
	需用費 3,827千円	燃料代・消耗品代等 (4,109千円ー282千円=3,827千円)	〔ハブ等販売料(雑入・△282千円)を 需要費と相殺した。〕	
	役務費 100千円	家電リサイクル代・ タイヤリサイクル代	〔環境保全美化推進に係る役務費〕	
	委託料 5,050千円	街路樹剪定等処理 白アリ被害の防除・樹木の強化	〔環境保全美化推進に係る委託料〕	
	使用料 2,216千円	車リース料 機械使用料	〔環境保全美化推進に係る使用料〕	
	原材料費 171千円	バラス・杉足場版等	〔環境保全美化推進に係る原材料〕	
	備品購入費 261千円	草刈り機(5台)	〔環境保全美化推進に係る備品購入費〕	
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○村内の業者を優先しており、妥当であると考えております ○予算規模は、事業に必要なものに限定しいるので適正な規模であると考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	ー	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-1-(1)	
事業内容	・平成25年度「今帰仁村風景づくり推進事業」モデル地区となった今泊地区における景観形成に係る行動計画の作成を受け、行動計画に位置付けられた地域で進めていくべき施策・事業等(ハード・ソフト)の実現化に向けた検討を行う。また、検討機関として庁内プロジェクトチームを設置し、事業内容等について調整・協議を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,850	4,281	3,182		
		(b) 予算現額	3,850	4,035	2,916		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 246	▲ 266		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	3,850	4,035	2,916		
	B. 執行済額		3,570	4,035	2,916		
	うち交付金充当額		2,856	3,228	2,332		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		92.7%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・予算の範囲内で適正な執行が行えた。また、不用額の266千円は入札残及び需要費減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・景観形成に係るハード事業・ソフト事業の行動計画の策定(今泊地区)	目 標	(景観計画策定)	(景観向上行動計画の策定)	ハード事業・ソフト事業の行動計画の策定	()	
		実 績	景観計画策定	景観向上行動計画の作成	ハード事業・ソフト事業の行動計画の策定の実施		
		目 標		()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・今泊地区における行動計画(案)に整理された施策及び事業等の実現化に向けた検討を行い、今泊地区の景観形成に係る事業計画(ハード・ソフト事業)の作成に至った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・景観形成に係るハード事業・ソフト事業の行動計画についてとりまとめる。(今泊地区)	目 標	()	(条例の制定)	(景観条例の施行)	ハード事業・ソフト事業の行動計画のとりまとめ	()
		実 績		条例制定の実施	景観条例の施行	ハード事業・ソフト事業の行動計画のとりまとめの策定	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・今泊地区における行動計画(案)に整理された施策及び事業等の実現化に向けた検討を行うため、庁内のプロジェクトチームを設置し、事業の実現に向けたプログラムの検討、調整、協議の結果、今泊地区の景観形成に係る事業計画の作成に至った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・計画に位置づけた事業の中には、今後スキームを検討する段階の事業があり、担当課・事業実施時期等を明確に示せなかった。今後、当該事業の進捗を踏まえつつ事業計画へ位置づけていく必要がある。	・平成26年度は、今泊地区モデル地区として事業計画を策定した。今後、村全体的な取組として移行していくためにも、各地域の住民意向の把握や各事業の補助要件等の整理が必要となる。
今後の取り組み方針		
・村全体的な展開を図るため、地域の意向を把握し、プロジェクトチームにおいて景観むらづくり支援の実施に向けた調整、協議を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,916</td><td>2,916</td><td>2,332</td><td>584</td><td></td></tr> </table> 今帰仁村 2,916千円 委託料 2,916千円 (株) 国建 2,916千円 今帰仁村風景づくり推進事業に係る委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,916	2,916	2,332	584	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,916	2,916	2,332	584											
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者につきましては、指名競争入札方式で行った為、妥当だと考えております。 ○予算規模についても、226千円の減額を行い、適正だと考えております。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村									
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	3-④		観光力基盤強化事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	経済課 総務課 建設課			事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所		国際的な沖縄ブランドの確立 Ⅲ-1-（1）	
事業内容	・今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、総合まつり、ハーリー、さくら祭り、三村交流事業、などのイベントを実施する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。									
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）									
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	31,514	25,550	24,300					
		(b) 予算現額	31,514	29,374	29,300					
		(c) 増減額 (b-a)	0	3,824	5,000					
		(d) 前年度繰越額	—	—	—					
		A. 計 (b+d)	31,514	29,374	29,300					
	B. 執行済額		31,417	29,374	29,300					
	うち交付金充当額		25,134	23,499	23,440					
	次年度繰越額		0	0	0					
	執行率（％）(B/A)		99.7%	100.0%	100.0%					
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、成果目標の達成状況を鑑み適正であったと考えている。								
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）			達成状況						
				24年度	25年度	26年度	27年度			
	・現代版組踊「北山の風」、総合まつりなど各種イベントの開催を支援する	目 標	(4回講演)	(イベント開催の支援)	(各種イベントの開催支援)	()				
		実 績	4回実施	イベントの実施	各種イベントの開催支援					
		目 標	()	()	()	()				
		実 績								
達成状況説明	・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り。総合まつり、今帰仁ハーリー、三村交流事業については、計画通り実施及び開催ができた。									
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）			基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）		
	①北山の風 イベント開催来場数 ②古宇利ハーフマラソン参加者数 ③今帰仁城跡ライトアップ・さくら祭り来場者数	目 標	()	4回	① 3回 (村内1 村外2) ② 2,500人 ③ 39,000人	① 1,000人 ② 2,500人 ③ 39,000人	()			
		実 績		4回	① 3回 (村内1 村外2) ② 2,927人 ③ 39,400人	① 1,150人 ② 3,503人 ③ 47,927人				
	④今帰仁村総合まつり来場者数 ⑤今帰仁ハーリー大会出場者数 ⑥三村交流事業来場者数	目 標	()		④ 8,000人 ⑤ 60チーム	④ 10,000人 ⑤ 770人 ⑥ 800人	()			
		実 績			④ 9,000人 ⑤ 64チーム	④ 10,000人 ⑤ 814人 ⑥ 800人				
	進捗状況説明	・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り、総合まつり、今帰仁ハーリー、三村交流事業については、計画通り実施及び開催ができた。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・古宇利マジックアワーRUNは今大会、天気にも恵まれ、申込者は目標数値の1,003人増の3,503人であった。 ・今帰仁村総合まつりは、パニラエア(LCC)の機内誌に今帰仁村の特集を組んだり、他のイベントで今帰仁村、今帰仁村総合まつりのPRを行い、宣伝効果が図られた。 ・今帰仁ハーリーを観光ハーリーとしてリニューアルし多くの観光客がきていただき、計画通り実施ができた。 ・今帰仁グスク桜まつりは、開催前より新聞やラジオでの告知を重ね、特にまつり期間中のラジオ出張番組をすることによって、大きな宣伝効果が図られた。 ・地域の人々や県外観光客からの人気も高まっており、公演会場は常に満席状態となりお客さんのニーズに対応できない状況がある。 ・三村交流事業は、来場者の増加に伴い三村の特産物の充実が必要である。	・参加者も増えている状況にあるなかで、なお一層PR活動に力を入れるとともに、魅力ある企画を行い、将来的には5,000人のマラソンを目指し、自主運営を達成していきたい。 ・PRで以前より総合まつりの周知を図ることができたが、もっと直接的に集客につながるよう工夫を行う。また、今後は来村者からリピーターにつながる努力も行わなければならない。 ・今後は、臨時駐車場の追加、駐車場への誘導員を増加し、来場者がスムーズに駐車できるよう改善する。また、事前に新聞やラジオでの臨時駐車場、シャトルバスの運行を告知する。 ・運天港という立地条件を活かした、海上イベントを計画していきたい。 ・今後は、更なる入場者数の増大を図るために、同じ施設で公演する際の公演回数を増やしたり、公演会場の規模を大きくするなどの取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
・「北山の風」は、これまで数々の公演活動を行っているが、公演会場は常に満席状態となっており、ニーズに対応できない状況がある。このような状況を解消し、今後更なる入場者数の増大を図るために、同じ施設で公演する際の公演回数を増やしたり、公演会場の規模を大きくするなどの取り組みを行う。 ・今帰仁村総合まつりも第5回をかぞえ、村民に飽きさせないような各種イベントの充実を図るとともに、今後は村外からの集客を増やすようなプログラムづくりに努める。 ・観光客の体験ハーリー等の参加者をもっと増やすことなど次年度以降も継続し、観光客誘致につなげる。 ・今帰仁グスク桜まつりは、世界遺産・今帰仁城跡で行われる桜のライトアップイベントである。これからも、多くの方に来場してもらうためにも、駐車場の確保、また、外国人観光客対応の、多言語表示や通訳を配置する。 ・三村交流事業は、三村の魅力を発信するためにも個々の特産物の充実及びイベント等の充実を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29,300</td><td>29,300</td><td>23,440</td><td>5,860</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	29,300	29,300	23,440	5,860	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
29,300	29,300	23,440	5,860	0										
今帰仁村 29,300千円 負担金及び補助金 29,300千円 北山ていだの会 4,000千円 古宇利ハーフマラソン 実行委員会 6,200千円 さくら祭り 実行委員会 10,000千円 総合まつり 実行委員会 5,500千円 今帰仁ハーリー 実行委員会 2,000千円 三村交流事業 実行委員会 1,600千円 現代版組踊「北山の風」上演に係る経費の補助 受益者負担 1,414千円 ハーフマラソン開催に係る経費の補助 受益者負担 14,170千円 さくら祭り開催に係る経費の補助 受益者負担 965千円 総合まつり開催に係る経費の補助 受益者負担 850千円 今帰仁ハーリー開催に係る経費の補助 受益者負担 930千円 三村交流事業開催に係る経費の補助 伊平屋村 1,100千円 伊是名村 1,100千円														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考えております。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模についても、各実行委員会でのイベントに見合った適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	観光地安全強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,543	4,464	4,591		
		(b) 予算現額	5,543	4,284	4,536		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 180	▲ 55		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	5,543	4,284	4,536		
	B. 執行済額		4,284	4,284	4,536		
	うち交付金充当額		3,427	3,427	3,628		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（%）(B/A)		77.3%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・不用額が55千円発生しているが、入札残によるものである。予算内での適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	・交通整理員の配置:4人(12月～2月) ・今帰仁城跡来訪者安全対策の実施	目 標	(城跡来訪者の安全対策)	(城跡来訪者の安全対策)	交通整理の配置4人 (城跡来訪者の安全対策)	()	
		実 績	城跡来訪者の安全対策の実施	城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。しかし今帰仁城跡に入場するためには観光客は県道を渡らないと入場できない為とても危険な状況でありイベント時には危険な状況は増すばかりである。今回交通整理誘導員を配置することにより今帰仁城跡への観光客の往来、また城跡駐車場への車の往来の安全を確保することができ、観光客等への今帰仁城跡のイメージアップが図られ、また安全安心を含めた城跡の魅力を発信することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
	・今帰仁城跡来訪者(約266,500名見込)の安全の確保(12月～2月)	目 標	()	城跡来訪者の安全対策	城跡来訪者の安全の確保	城跡来訪者の安全の確保	()
		実 績		城跡来訪者の安全対策の実施	城跡来訪者の安全の確保の実施	城跡来訪者の安全の確保の実施	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。しかし今帰仁城跡に入場するためには観光客は県道を渡らないと入場できない為とても危険な状況でありイベント時には危険な状況は増すばかりである。この事業で交通整理誘導員を配置することにより今帰仁城跡への観光客の往来、また城跡駐車場への車の往来の安全を確保することによって、スムーズに見学することができ今帰仁城跡のイメージアップが図られ、また安全安心を含めた城跡の魅力を発信することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置する。しかし、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど多くの観光客等が訪れており更なる安全対策が課題である。	・世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど安全対策が必要である。
今後の取り組み方針		
・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置することで、城跡の安全安心をより一層発信することができ更にリピータに期待し、継続して行きたい。また、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど更なる世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全安心の確保強化に取り組む必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,536</td><td>4,536</td><td>3,628</td><td>908</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,536	4,536	3,628	908	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,536	4,536	3,628	908	0										
今帰仁村 4,536千円 → 委託料 4,536千円 → 北部警備保障(株) 4,536千円 〔今帰仁城跡来訪者安全対策にかかる委託業務〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正規模であると考えております。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	今帰仁城跡周辺環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
					観光客の受入体制の整備		
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成24～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	・世界遺産今帰仁城跡をはじめ、国指定文化財及び県指定文化財を保有する重要地域に位置する今泊港川の整備をすることにより、河川敷などの空間を有効利用、治水安全度の向上を図り、また、城跡さくら祭りのさくらを植栽し、緑化や美化を地域ぐるみで推進し、観光客受入体制を強化する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	24年度（繰越）	25年度	25年度（繰越）	26年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,200	-	61,900		47,124
		(b) 予算現額	16,464	-	51,841		47,872
		(c) 増減額 (b-a)	2,264	-	▲ 10,059		748
		(d) 前年度繰越額	-	12,054	-	35,818	-
		A. 計 (b+d)	16,464	12,054	51,841	35,818	47,872
	B. 執行済額		4,410	12,054	16,023	35,719	47,872
	うち交付金充当額		3,528	9,643	12,818	28,576	38,297
	次年度繰越額		12,054	0	35,818	0	0
	執行率（％）(B/A)		26.8%	100.0%	30.9%	99.7%	100.0%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容のうち植栽工以外はほぼ実施でき、748千円増額を行って予算内で適正な執行が行えた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・河川改修工事（左岸）L＝90m	目 標	（ 実施設計・測量・調査設計の実施 ）	（ 12筆分筆測量 河川工事 L＝90m ）	（ 改修工事（左岸） L＝90m ）	（ ）	
		実 績	実施設計・測量・調査設計の完成	13筆分筆測量 河川工事 L＝90mの完成	改修工事（左岸） L＝88mの完成		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成状況説明	・河川延長560mのうち河川整備工事（左岸L＝88m）の工事を実施した。2mできなかった理由は木の伐採費用が当初より増額になった為である。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	・河川敷きなどの空間を有効利用、治水安全度の向上 ・観光客の安全・安心な観光基盤構築 ・平成25年度は延長560mの内左岸90mの工事を実施する	目 標	（ ）	（ 実施設計・測量・調査設計の実施 ）	（ 治水安全度の向上 L＝90m工事の実施 ）	・河川敷きなどの空間を有効利用、治水安全度の向上 ・観光客の安全・安心な観光基盤構築 ・改修工事（左岸）L＝90m	（ ）
		実 績		実施設計・測量・調査設計の完成	治水安全度の向上が図られた L＝90m工事の完成	・河川敷きなどの空間を有効利用、治水安全度の向上が図られた。 ・観光客の安全・安心な観光基盤構築が図られた。 ・改修工事（左岸）L＝88mの完成	
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	・河川延長560mのうち河川整備工事（左岸L＝88m）の工事を実施した。2mできなかった理由は木の伐採費用が当初より増額になった為である。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・河川環境に配慮し、下流側は塩害対策を講じた植栽計画を推進する必要がある。	・工事現場の状況把握が甘く成果目標が達成できなかった。今後は、工事現場の状況を把握し、隣接住民の意見や地域の特性も反映しながら、改修工事を推進する必要がある。
今後の取り組み方針		
・今後は、成果目標が確実に実施できるように現場の状況を把握し、世界遺産今帰仁城跡の景観に配慮した工事(用地取得及び右岸工事、左岸工事等)を推進する。また、河川敷の空間を有効活用し、治水安全度の向上を図るとともに、隣接住民の意見も反映しながら、事業の実施を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47,872</td><td>47,872</td><td>38,297</td><td>9,575</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	47,872	47,872	38,297	9,575	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
47,872	47,872	38,297	9,575	0										
今帰仁村 47,872千円 委託費 200千円 (株)大協測量 200千円 今帰仁城跡周辺環境整備に係る実施設計計画図面作成委託業務 今帰仁村 47,872千円 工事請負費 47,182千円 (株)国吉建設 47,182千円 今帰仁城跡周辺環境整備に係る工事請負 今帰仁村 47,872千円 補償・補填及び賠償金 490千円 物件補償(1件) 490千円 今帰仁城跡周辺環境整備に係る物件補償														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、金額が少額のため随意契約で執行した。また、工事業者に関しては、指名競争入札方式で選定し、適切に執行した。 ○予算規模については、748千円増額を行い、適正規模だと考えております。 ○費目・使途は事業目的の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書面により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑦	今帰仁村体験型観光振興事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	・今帰仁村の体験型観光振興に向けて、安心安全の民泊受け入れ体制づくり、村内の自然資源、文化資源を活かし体験型観光商品の開発、修学旅行、社会人研修、スポーツキャンプ、合宿の誘致及び今帰仁村の体験型観光の情報発信等を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,180	7,100	8,134		
		(b) 予算現額	2,180	7,100	8,134		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	2,180	7,100	8,134		
	B. 執行済額		2,180	7,100	8,134		
	うち交付金充当額		1,744	5,680	6,507		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容は、すべて実施したほか適正であったと考える。				
	活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度		
①民泊受入家庭向け講習会 ②スタッフ、受入家庭視察研修 ③村内体験商品メニュー作成調査 ④県外誘致活動 ⑤体験型観光マップ、パンフレット作成		目標	(旅行者訪問説明会の開催)	(基本計画策定・民泊説明会の開催・民泊誘致・PR活動)	(①5回 ②2回 ③2回 ④2回 ⑤マップ、パンフレット作成)	()	
		実績	旅行者26社説明会3回	基本計画策定・先進地視察研修実施・民泊誘致出展2回	①5回 ②2回 ③2回 ④2回 ⑤マップ、パンフレット作成		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		・新規受入家庭向けの講習、受入家庭の受入れレベル向上の為の各種講習会の開催、観光協会職員、受入れ家庭代表3名での伊是名島への視察研修等、受入体制強化を行った。PR活動に関しては、東北、関東圏の旅行者、学校向けの修学旅行誘致フェアへの出展、旅行社訪問を行った。また、旅行社・学校向けのパンフレットの修正、新規作成、村内受入家庭向けの民泊受入ガイドブックの作成、訴求力の高い映像資料の作成を行った。課題であった簡易宿所の営業許可取得に関しても、目標の50軒を達成できた。平成27年、28年度の修学旅行の予約も順調に増やすことができている。地元の農林漁家の巻き込みについては今後も地道な説明努力をし、少しずつ割合を増やしていきたい。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
	①簡易宿所営業許可取得済民泊受入家庭 ②修学旅行受入 ③新規体験型観光商品メニュー作成 ④体験型観光パンフレット、マップ作成	目標	()	(運用体制構築・基盤整備のための課題の把握)	(運用体制構築・基盤整備のための課題の把握)	(①50軒 ②15校 ③商品メニュー作成 ④パンフレット、マップ作成)	()
		実績		課題の把握ができた	課題を把握し、運用体制構築を進め、予約を獲得できた	①50軒 ②16校 ③商品メニュー作成の実施 ④パンフレット、マップ作成の実施	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・ヒアリング調査による民泊市場の確認、平成25年度の実際の民泊受入4回を通し、平成26年度で具体的な受入の手引き（受入家庭向けのマニュアル）、民泊ガイドブック（旅行社・学校向けの手引き）を作成した。パンフレットの修正、新規作成、訴求力の高い映像資料の作成を行い、実際に旅行社、学校から高い評価を頂き、平成27年度以降の予約も順調に獲得できている。また、平行して実際の受け入れを行っていく中で、常に柔軟にマニュアル、ガイドブックに修正を加え、より安心安全な民泊受け入れを継続して行っていくようにシステム作りを続けていかなければならない。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・観光協会としては今帰仁村内で一つの窓口で民泊を行っていきいたいところであったが、伊江島を中心に、本部、南城、読谷等地域で民泊事業を展開する民間業者が、古宇利島でも民泊事業を開始した。恐れていた受入れ家庭の重複の問題が発生した。両窓口による予約の重複、キャパを超える予約獲得を避けるため、受入れ家庭の所属をはっきりと分ける必要があり、何度も受入れ家庭向けの説明会を行い、所属窓口の表明アンケートを実施した。アンケートによって優先する窓口がハッキリしたが、民間窓口への所属を表明する家庭もあり、順調に増えていた受入れ家庭が減少した。これから観光協会への所属をはっきりと表明する受入れ家庭を増やしていく必要ができた。	・ボランティア精神を持って誠実に民泊受け入れを行う受入れ家庭を増やし、目先の利益だけを追求し、今帰仁村活性化への貢献意欲や、納税に対する意識の低い受入れ家庭を淘汰していく必要がある。急に受入れ校数が多くなり、受入れ家庭を増やしていかなければならない課題はあるが、安心して任せられる受入家庭を増やしていけないと、今後の問題、事故発生懸念材料にもなりかねない。区長や地元の方からの紹介等、新規受入家庭の増やし方を吟味していく事が重要となってくる。これからは受入れの質の更なる向上によるリピート獲得に力を注ぐことが更なる向上へつながる。
今後の取り組み方針		
・昨年度に引き続き、受入れ家庭の受入れレベル向上、安心安全の受入れを行うための各種講習会を実施してきたが、参加する家庭、しない家庭に差が出てきている。講習会に出席しない家庭には受入れさせない等、厳格なルールとその周知徹底が必要になってきている。昨年度より実際の受け入れも行う中で、具体的なルール化、マニュアルの補足が数多く出てきており、より実用的なマニュアル作成、受入家庭への啓蒙活動を更に進めていく。また、PR活動に関しては、予約の獲得も順調にできていることから、戦略をたて効率的なPR活動を続けていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>8,134</td><td>8,134</td><td>6,507</td><td>1,627</td><td>0</td></tr> </table> 今帰仁村 8,134千円 補助金 8,134千円 今帰仁村観光協会 8,134千円 今帰仁村体験型観光振興事業に係る経費の補助 受益者負担 5,572千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,134	8,134	6,507	1,627	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,134	8,134	6,507	1,627	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○今帰仁村の事業所で民泊事業等体験型観光を実施しているのが、村観光協会のみである為選定方法は妥当である。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑧	今帰仁城跡ガイド強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成	
事業内容	・今帰仁村には世界遺産今帰仁城跡が所在し、今帰仁グスクを学ぶ会によって来場者に無料ガイドが行われている。学ぶ会の更なる充実強化を図ることで、ガイド個々の資質向上が図られ、今帰仁城跡の魅力を観光客にアピールすることが出来るためガイドの強化を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	3,560	3,769		
		(b) 予算現額	4,000	3,210	3,690		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 350	▲ 79		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	4,000	3,210	3,690		
	B. 執行済額		3,885	3,210	3,690		
	うち交付金充当額		3,108	2,568	2,952		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		97.1%	100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明		・予算内での適正な執行が行えた。				
	活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況			
			24年度	25年度	26年度	27年度	
・案内に資する知識を得るために講演会(1回)及び研修会(2回)を開催する。		目標		・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	(講演会1回研修会2回)	()	
		実績		・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	講演会1回実施研修会3回実施		
		目標	()		()	()	
		実績					
達成状況説明		・講演会の開催、他市町村の文化財、博物館講座への参加、検定受検等を通して、ガイドの資質向上が図られている。					
成果目標(指標)及び進捗状況		H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度
	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	目標	()	()	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	()
		実績			・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	
	・ガイドによる来訪者の案内11,600名目標	目標	()	()	(11,000名)	(11,600名)	()
		実績			11,419名	12,603名	
	進捗状況説明	・講演会、見学会等の実施を通してガイドの資質向上を図り、案内ガイドの訓練実績を重ねてきた。平成26年度の来訪者への案内は、目標数値を上回る12,603名の案内実績を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・講演会や研修会を実施したり、図書の購入により知識の向上を図っている。また他市町村のガイドグループとの交流の実施を通して、ガイドの資質向上に努めている。よって、特に課題はないと思われる。	・平成26年度、今帰仁城跡の入場者数は前年度比約19,000人増となり、大幅増となった。これに伴い案内ガイドの回数も増加するに至った。平成27年度も観光担当部局との連携による観光客誘致活動を引き続き進めていく予定であり、さらなる入場者数の増加を見込んでいる。そのため、数名程度ガイドメンバーの増員を検討したい。
今後の取り組み方針		
・今後も講演会、研修会、見学会等を実施して、さらに案内に資する知識や経験を重ねていく。また、ガイド養成講座を実施し、メンバーの増員を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,690</td><td>3,690</td><td>2,952</td><td>738</td><td>0</td></tr> </table> 今帰仁村 3,690千円 委託料 3,690千円 今帰仁グスクを学ぶ会 3,690千円 今帰仁城跡ガイド強化にかかる委託業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,690	3,690	2,952	738	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,690	3,690	2,952	738	0										
資金の流 使途の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約9年の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先であったと考えている。 ○予算規模については、適正規模だと考えております。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村									
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	3-⑨		金装宝剣拵事業(千代金丸:国宝の模造作成)				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度		平成26年度		沖縄振興基本方針該当箇所		沖縄の文化の源流を確認できる地域づくり	
事業内容	・尚家主尚裕より平成7年、8年、に同家伝承文化財が沖縄県那覇市に寄贈され、平成14年に三振りとも「琉球王家尚家伝来品」の一つとして重要文化財に指定される。さらに、平成18年歴史文書類を加えて「琉球国王尚家関係資料」として国宝に指定される。その宝剣の模造品を作成する。									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
			(a) 当初予算額		11,048					
			(b) 予算現額		11,098					
			(c) 増減額 (b-a)		50					
			(d) 前年度繰越額		—					
	A. 計 (b+d)		11,098							
	B. 執行済額		11,098							
	うち交付金充当額		8,879							
	次年度繰越額		0							
	執行率 (%) (B/A)		100.0%							
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施し、適正な予算執行が行えた。								
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)				達成状況					
					26年度	27年度	28年度	29年度		
	・金装宝剣(千代金丸:国宝)の模造作成				目 標	(一 振)	()	()	()	
					実 績	一振完了				
					目 標	()	()	()	()	
					実 績					
達成状況説明	・金装宝剣(千代金丸:国宝)の模造作成を全て完了することができた。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)				基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	29年度	
	・歴史文化センター入館者 133.00人				目 標	()	(133,000人)	()	()	()
					実 績		126,760人			
					目 標	()	()	()	()	()
					実 績					
	進捗状況説明	・入館者数については、年度末の完成ということもあり目標に至っていないが、新聞報道2社(沖縄タイムス・琉球新報)へのPR活動を進めている。 ・「金装宝剣(千代金丸)北山滅亡」として、講演活動を行った。また、今帰仁グスクを案内する方々に千代金丸のレクチャーをし集客に努めた。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新聞報道2社(沖縄タイムス・琉球新報)へのPR活動を進めていく。また、今帰仁グスクを案内する方々に千代金丸のレクチャーをし集客に努める。	・今後は、「金装宝剣(千代金丸)」を含めたイベントの開催計画を検討する。
今後の取り組み方針		
・今後は、集客誘致に向けて村民をはじめ「金装宝剣(千代金丸:国宝)」についての、広報活動・イベント等を行い集客に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>11,098</td><td>11,098</td><td>8,879</td><td>2,219</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,098	11,098	8,879	2,219	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,098	11,098	8,879	2,219	0										
今帰仁村 11,098千円 委託料 10,800千円 (刀剣拵師)高山一之 10,800千円 〔金装宝剣拵事業にかかる委託業務〕 今帰仁村 11,098千円 旅費 273千円 囃子員旅費 東京都3回×1人 岡山県1回×1人 273千円 〔金装宝剣拵事業にかかる旅費〕 今帰仁村 11,098千円 備品購入費 25千円 説明パネル 25千円 〔金装宝剣拵事業にかかる備品購入〕														
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者である「刀剣拵師 高山一之」は、この種の業務に精通した人材であり、経験も豊富なことから随意契約を行い実施した。契約については、妥当な委託先であったと考えている。 ○予算規模については、50千円の増額であり適正な規模だと考えております。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑩	今帰仁村総合運動公園施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	・「スポーツ交流むら」は天然芝グラウンド、温水プール、クラブハウスなどが集積され、各種大会、合宿、キャンプ地として高い評価を受けている。しかしながら、夜間照明の改善による夜間トレーニングへの対応や、故障者のコンディショニングへの対応、駐車場等の整備などの課題を抱えており、課題解決のための機能強化を推進する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,500	-	55,000	100,000	
		(b) 予算現額	14,700	-	55,145	115,211	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 800	-	145	15,211	
		(d) 前年度繰越額	-	10,290	-	-	
		A. 計 (b+d)	14,700	10,290	55,145	115,211	
	B. 執行済額		4,410	10,290	55,145	115,211	
	うち交付金充当額		3,528	8,232	44,116	92,168	
	次年度繰越額		10,290	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		30.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・テニスコート工事は、コート造成を主としたテニスコート改築工事とナイターの照明電気設備工事があり、当初予算は、テニスコート改築工事分の事業費であった。平成26年度内で照明電気設備についても整備することで利用率をあげるために、15,211千円の増額補正を行い事業を執行し、テニスコートの完成とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・多目的広場設計委託	目 標	運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事	多目的広場設計委託	()	
		実 績	運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事の実施	多目的広場設計委託業務の実施		
	・テニスコート改築工事(4コート) ・テニスコート照明電気設備工事	目 標	()	()	テニスコート改築工事及び照明電気設備工事	()	
		実 績			テニスコート改築工事及び照明電気設備工事の完了		
達成状況説明	・多目的広場設計委託を計画どおり執行した。 ・テニスコート改修工事及びテニスコート照明設備改修工事を計画どおり執行した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	・多目的広場設計業務の完了	目 標	()	運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事	多目的広場設計委託の完了	()
		実 績		運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事の実施	多目的広場設計委託の完了	
	・テニスコート(4面)の改築工事の完成 ・テニスコート照明電気設備工事の完成	目 標	()	()	()	テニスコート改築工事完成 テニスコート照明電気設備工事完成	()
		実 績				テニスコート改築工事の完了 テニスコート照明電気設備工事の完了	
	進捗状況説明	・テニスコートをクレー(土)コートから多少の降雨では、プレー可能なオムニコート(砂入り人工芝)に改修した。 ・テニスコート照明電気設備改修工事の投光器を経済性や環境に配慮しLED製品を採用し執行した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・今までクレーコートが傷み使用できない状況であったが、工事が完了して今後はテニスコートの使用が可能のため、テニスコートの使用頻度の向上する見込みである。しかしながら、村内外への中高大学や各年代のクラブチームへテニスコートが改修された立派なコートへ改善したことについての周知が課題である。	・平成27年4月1日供用開始で供用期間も短いため、村内外への周知や合宿等の誘致活動を積極的に行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・運動公園の利用頻度が向上する施設機能強化事業として、村外利用者の合宿等の受入数及びリピーターの増加を当事業の主眼として捉えることで、合宿・キャンプを目的とした利用者の技術の向上や健康増進を定着させることで、施設利用による交流人口の増加によって観光産業に付随した地域活性化となるよう合宿・キャンプ誘致の活動を推進する。 ・平成27年4月25日(日)には、県内トップレベルのチームや児童生徒への育成指導者、そして生涯スポーツとしてソフトテニス愛好しているクラブチームを対象とした今帰仁村営テニスコート改装記念ソフトテニス大会を開催し、合宿等での利用の宣伝を兼ねた交流と情報交換を行った。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		115,211	115,211	0
		交付金充当額	市町村負担金	
		92,168	23,043	
今帰仁村 115,211千円 委託費 3,672千円 (株)国建 3,672千円 タ目的広場にかかる委託設計業務 今帰仁村 115,211千円 工事請負費 110,393千円 (有)上宏工業 110,393千円 テニスコート(フットサル兼用)改修かかる請負工事 今帰仁村 115,211千円 備品購入費 1,146千円 (有)上宏工業 1,146千円 テニス及びフットサル用具にかかる備品購入				
資金の 使途の 流れ、 費目・ 検 査 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託・工事・備品購入事業者は指名競争入札方式で選定しており、適切に執行した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模つきましては、15,211千円の増額を行ったが適正規模であると考えております。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村							
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－ア		
担当部署名	経済課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ－1－（6）		
事業内容	・安定した素生産地の確立のための今帰仁村和牛改良組合が沖縄県農業協同組合の貸付牛を導入する際に、1頭あたり50万円を上限に導入牛の価格の半額を補助する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,500					
		(b) 予算現額	10,252					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 248					
		(d) 前年度繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	10,252					
	B. 執行済額		10,252					
	うち交付金充当額		8,201					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		・予算範囲内での適正な執行が行えた。						
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に補助する	目 標	(1頭あたり50万円を上限に補助)			()	()	
		実 績	1頭あたり50万円を上限に補助の実施（平均1頭41万円）					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	達成状況説明	・セリ相場の変動等もあり、1頭あたり平均41万円の補助となったが、高得点候補牛の導入が出来た。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）	
	・繁殖牛 21頭導入 ・全体計画のうち 導入率12.3%	目 標	()	21頭導入（導入率：12.3%）		()	()	
		実 績		25頭導入（導入率：14.7%）				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	・成果目標の21頭を上回る、25頭（14.7%）導入することが出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・導入牛のほぼ9割が県外牛であり、今後は県内での導入牛を増やすことを視野に検討を行う。	・今回は、事業導入当初にあたり事務手続き等に時間を要し、11月からの事業実施であった、今後は、年間を通してよりよい雌牛の導入を行う。
今後の取り組み方針		
・和牛改良組合、JAと再度血統等の勉強会を行い、より高得点の見込める雌牛導入を目指す。 ・和牛改良組合、JA、関係機関を含め年間を通して、県内・県外おける優良雌牛の情報に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		10,252	10,252	

今帰仁村
10,252千円

補助金
10,252千円

沖縄県農業協同組合
10,252千円

〔 今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援
事業に関する補助金
(受益者負担額: 12,861千円) 〕

総事業費

23,113千円

交付対象事業費

10,252千円

受益者負担

12,861千円

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○沖縄県農業協同組合と事務委託契約を結び選定方法は妥当であったと考える。 ○予算規模については、246千円の減額を行い、適正規模と考えております。 ○受益者負担は、12,861千円となっており負担関係は妥当だと考えております。 ○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村							
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①	墓地基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部署名	福祉保健課	事業実施(予定)年度	平成26～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	・墓地実地調査により、墓地分布図などを作成して墓地の立地特性の把握を行う。村で墓地等経営許可の事務処理し、墓地利用に的確に対応するために、「今帰仁村墓地基本計画」を策定する。さらに、住民調査などによって、住民ニーズの把握を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,300					
		(b) 予算現額	5,724					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 576					
		(d) 前年度繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	5,724					
	B. 執行済額		5,724					
	うち交付金充当額		4,579					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		・予算の範囲内で適正な執行が行えた。また、不用額の576千円は入札残によるものである						
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況					
	・墓地実地調査の実施 ・墓地の立地特性の把握		26年度	27年度	28年度	29年度		
		目 標	（ 墓地実地調査立地特性の把握 ）		（ ）	（ ）		
		実 績	墓地実地調査の実施立地特性の把握の実施					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
	実 績							
達成状況説明	・第一次現地調査を行い、その結果の整理が済んだ時点で、地域住民へ調査漏れ墓地の情報をヒアリングを行い、第二次現地調査を実施した。現地調査の結果を基に、墳墓の分布状況がわかるように墓地分布図の作成を行った。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）	
	・実態調査 ・村内の墓地分布図の作成	目 標	（ ）	19字分布図の作成	（ ）		（ ）	
		実 績		19字分布図の完成				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
	進捗状況説明	・調査項目（墳墓の形態、墓地の規模、管理状況、立地状況等）に基づいて第一次現地調査を行い、その後、地域住民へ調査漏れ墓地の情報ヒアリングして、第二次現地調査を実施した。現地調査の結果を基に、墳墓の分布状況がわかるように墓地分布図を作製した。そして、墓地の実態がわかるように、集計結果を表やグラフを用いてわかりやすくとりまとめを行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・現地調査(一次)及び現地調査(二次)を当初の計画どおり実施した。現地調査の結果を基に墓地分布図・調査報告書を作製し、各自治会長へ配布してその内容を説明した。	・墓地の管理者や使用者に対して、継承者が居なくなる問題点の周知活動などの無縁墓地についての対策を行う。 ・アンケート調査の実施により、墓地の需要を推計する。
今後の取り組み方針		
・平成26年度に行った墓地実態調査結果を基に、平成27年度に今帰仁村墓地基本計画を策定する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>5,724</td><td>5,724</td><td>4,579</td><td>1,145</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	5,724	5,724	4,579	1,145	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
5,724	5,724	4,579	1,145	0										
今帰仁村 5,724千円 → 委託料 5,724千円 → 株)沖縄チャンドラー 5,724千円 (今帰仁村墓地実態調査に係る委託業務)														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、入札残による減額であり適正な規模であったと考えている。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												